

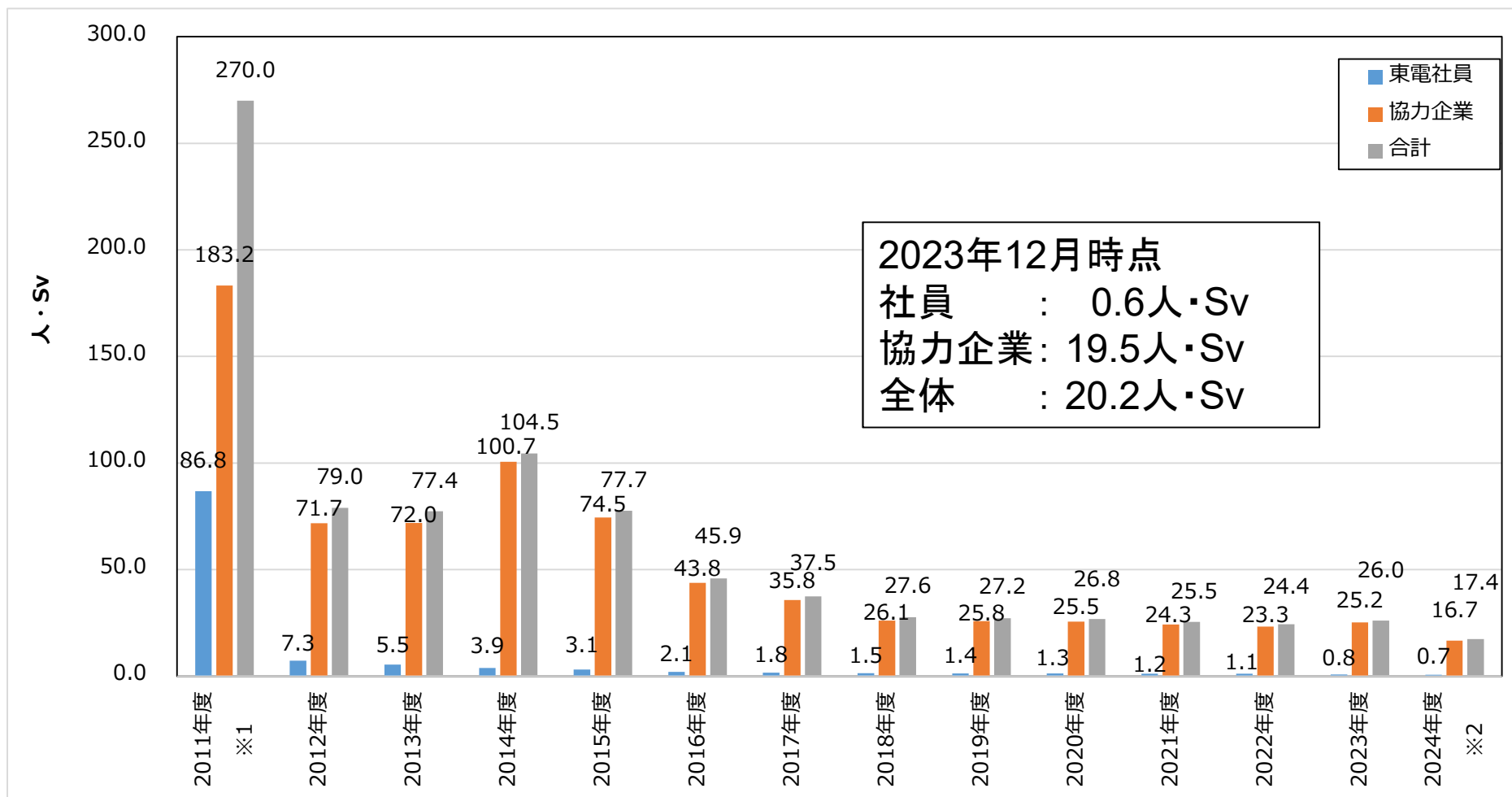
福島第一原子力発電所 従事者の被ばく線量全体概況について

2025年2月19日

東京電力ホールディングス株式会社

① 発災以降の年度別外部被ばく線量の低減状況（総実効線量）

- 前年度同時期と比較して協力企業の実効線量は2.8人・Sv低い。

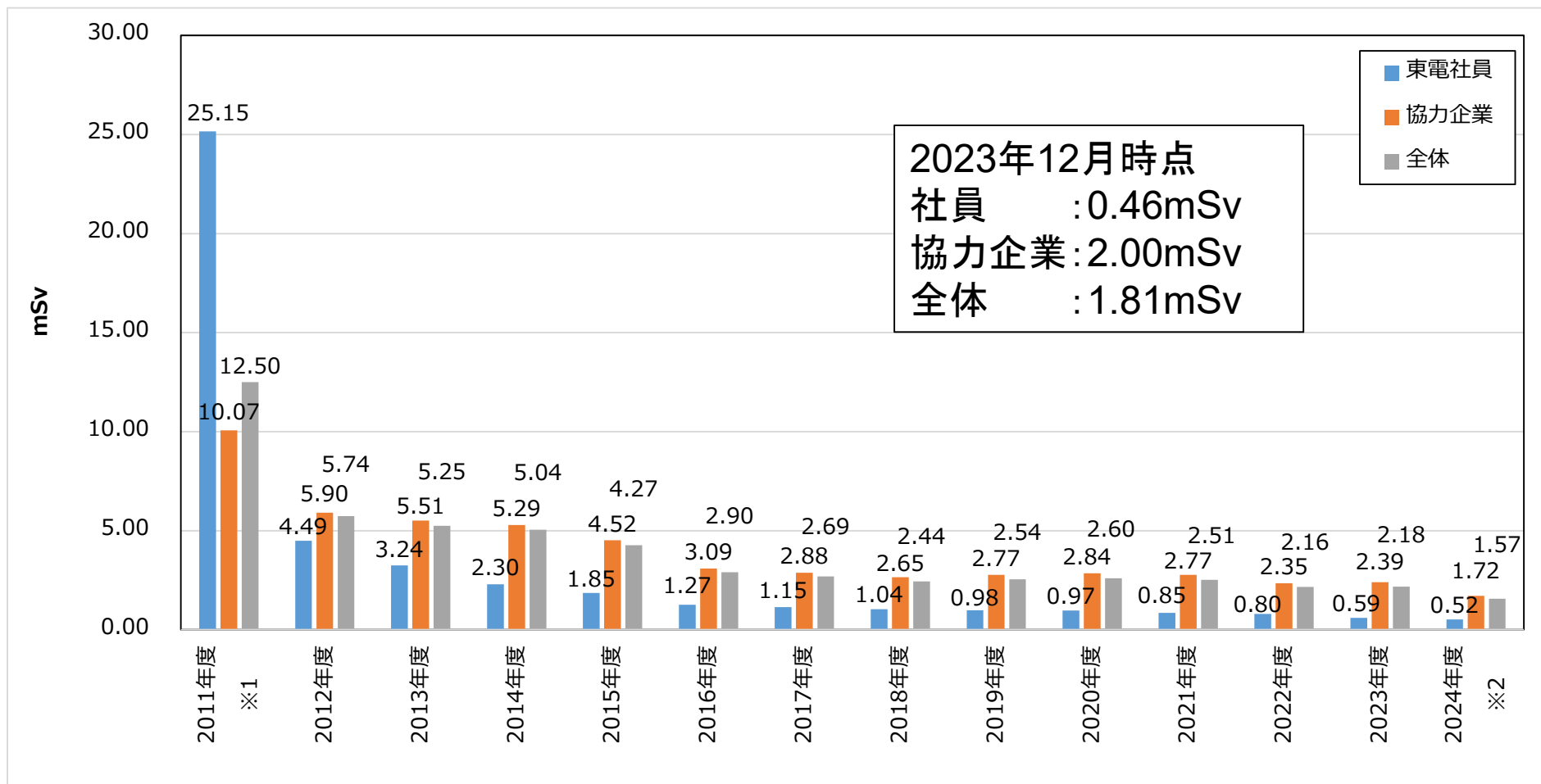


※1 : 2011年度は2011年3月を含む

※2 : 2024年度は2024年12月暫定分まで

②発災以降の年度別外部被ばく線量の低減状況（平均線量）

■ 前年度同時期と比較して同程度となっている。

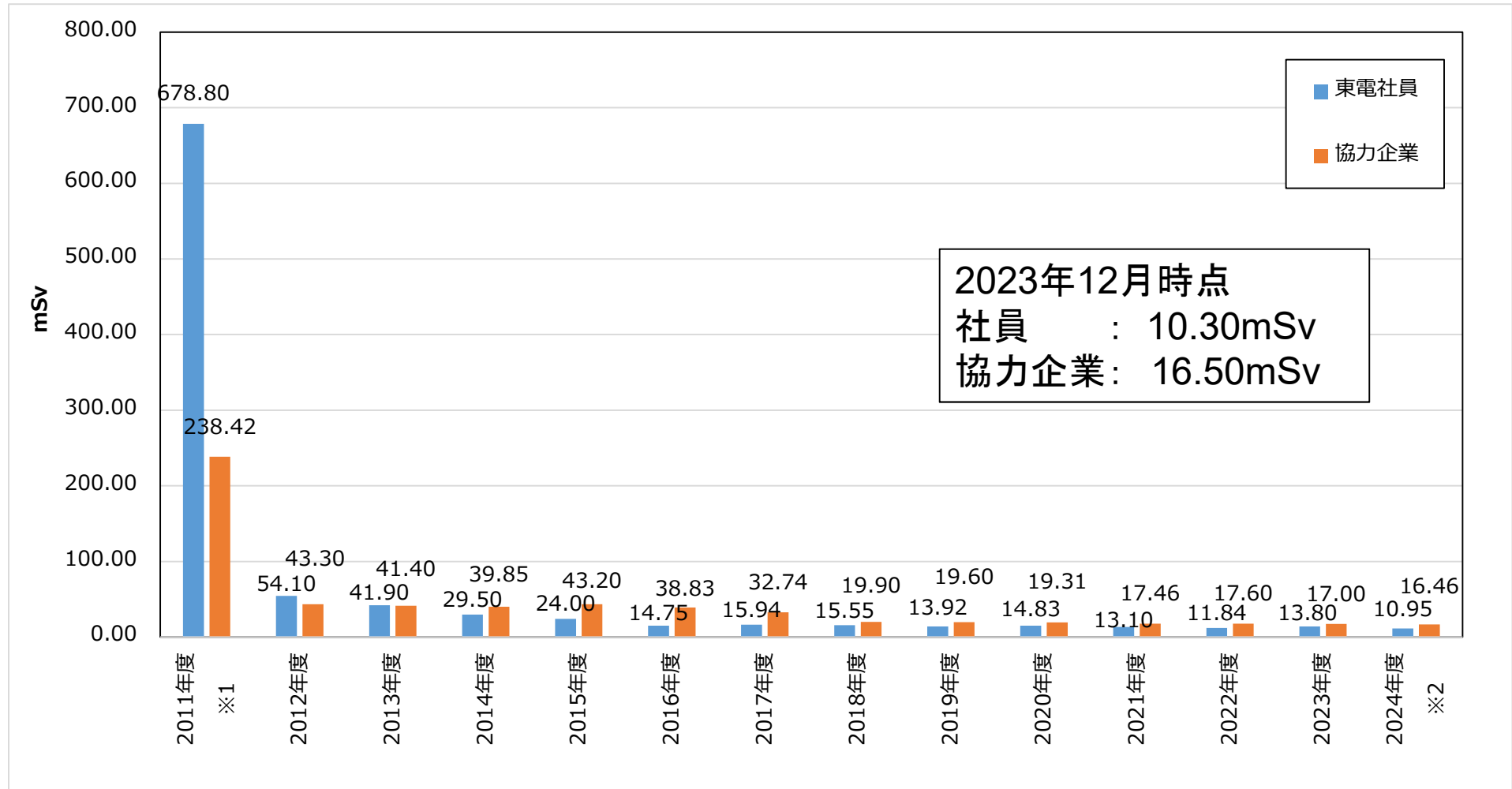


※1：2011年度は2011年3月を含む

※2：2024年度は2024年12月暫定分まで

③発災以降の年度別外部被ばく線量の低減状況（最大線量）

■ 前年度同時期と比較して同程度となっている。



※1：2011年度は2011年3月を含む

※2：2024年度は2024年12月暫定分まで

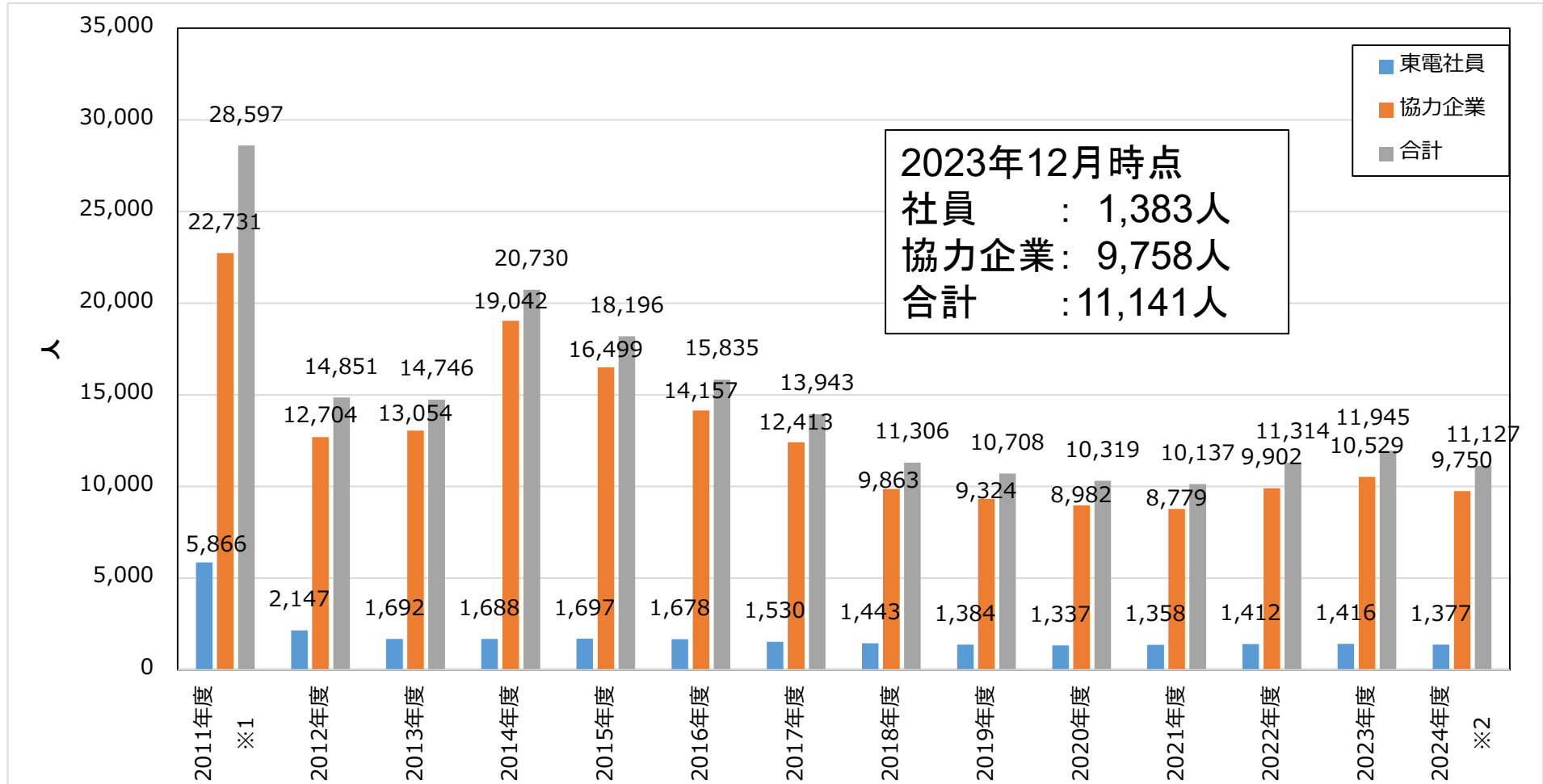
©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.

無断複製転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

TEPCO

④ 発災以降の年度別放射線業務従事者数

■ 前年度同時期と比較して同程度となっている。



※1 : 2011年度は2011年3月を含む

※2 : 2024年度は2024年12月暫定分まで

⑤放射線業務従事者の累積外部被ばく線量 2024年度

区分(mSv)	2024.4月～2024.12月		
	東電社員	協力企業	計
100超え	0	0	0
75超え～100以下	0	0	0
50超え～75以下	0	0	0
20超え～50以下	0	0	0
10超え～20以下	2	425	427
5超え～10以下	25	809	834
1超え～5以下	157	1,877	2,034
1以下	1,193	6,639	7,832
計	1,377	9,750	11,127
最大(mSv)	10.95	16.46	16.46
平均(mSv)	0.52	1.72	1.57

○2024年度（2024.4月～2024.12月）に作業実績のある11,127人のうち

11,127人（100%）は20mSv以下

9,866人（88.7%）は5mSv以下

○被ばく線量は、個人線量上限値を20mSv/年とし、個人線量目標値を18mSv年として、管理している。

○2011.10月以降、有意な内部取り込みは認められていない。

※2024年12月は暫定値を含む

⑥2021年4月1日を始期とする5年間の累積外部被ばく線量

区分(mSv)	2021.4月～2024.12月		
	東電社員	協力企業	計
100超え	0	0	0
75超え～100以下	0	0	0
50超え～75以下	0	89	89
20超え～50以下	31	1,231	1,262
10超え～20以下	68	1,898	1,966
5超え～10以下	130	1,697	1,827
1超え～5以下	383	2,876	3,259
1以下	1,294	8,814	10,108
計	1,906	16,605	18,511
最大(mSv)	34.57	63.98	63.98
平均(mSv)	2.02	5.39	5.04

○2021.4～2024.12に作業実績のある18,511人のうち

18,511人 (100%) は100mSv以下

18,422人 (99.5%) は50mSv以下

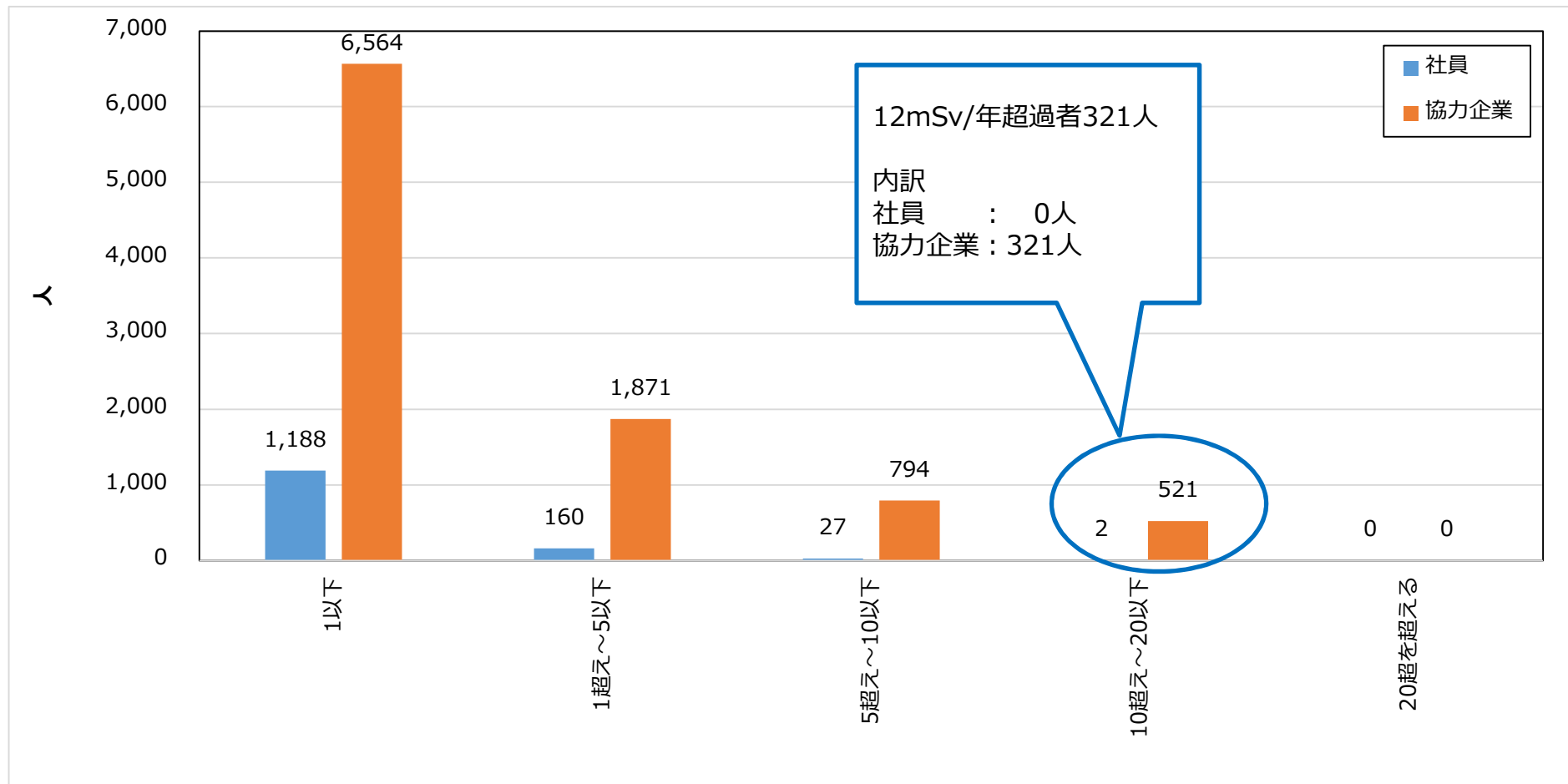
17,160人 (92.7%) は20mSv以下

○被ばく線量は、100mSv/5年の線量限度を超えないよう、80mSv/5年の管理をしている。

※2024年12月は暫定値を含む

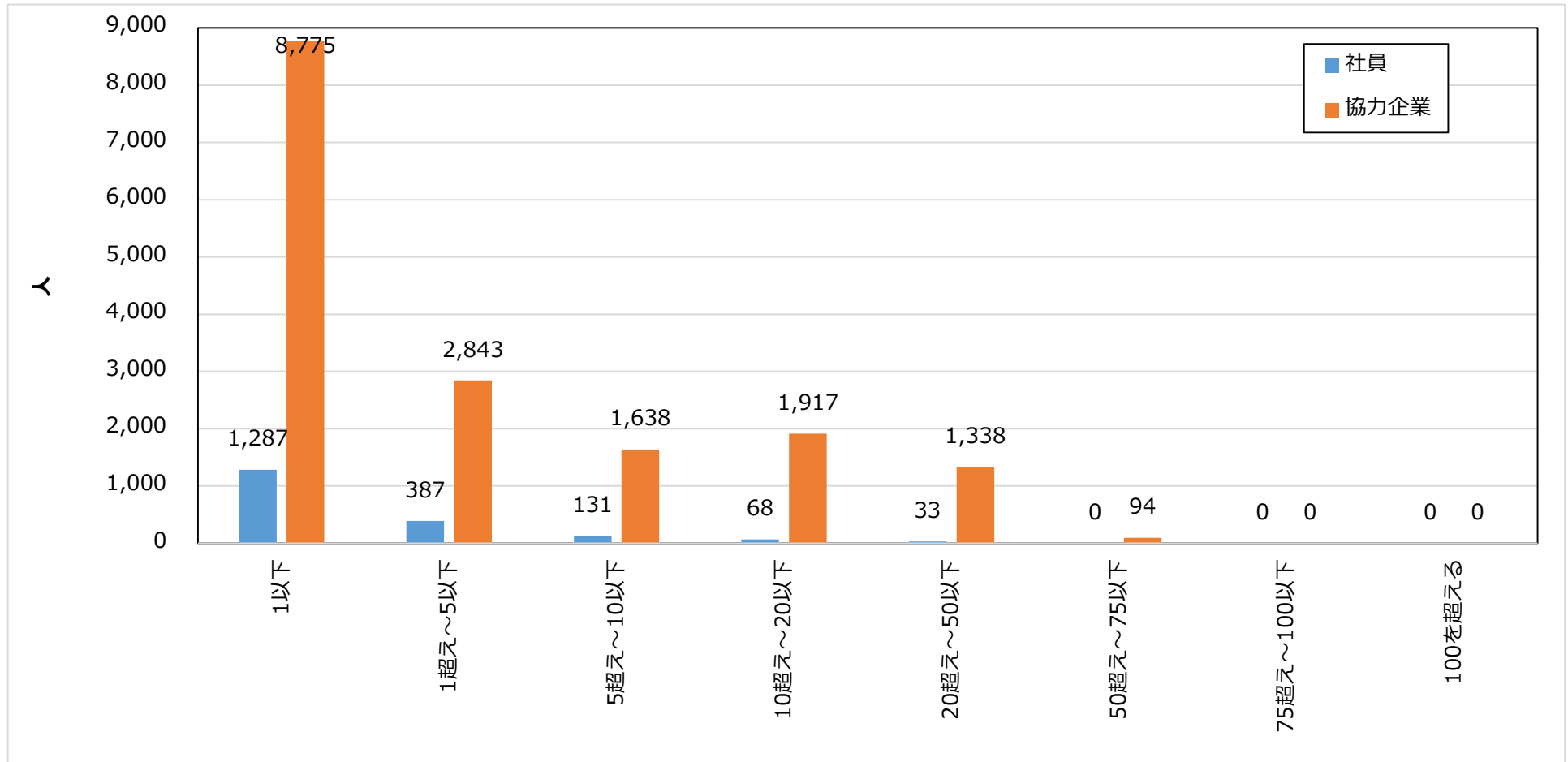
⑦眼の水晶体 累積等価線量分布（2024年度）

- 2024年12月暫定分までの眼の水晶体の最大線量は、17.2mSv。
- 全ての作業者について眼の水晶体の等価線量は、線量限度内(50mSv/年)で管理。
- 眼の水晶体の等価線量が12mSv/年を超える作業を計画した段階、または超えたことが確認された段階で、眼の水晶体の等価線量を、眼の水晶体近傍（又は頭頸部）で測定を開始している。



⑧2021年4月1日を始期とする眼の水晶体5年間の累積等価線量分布

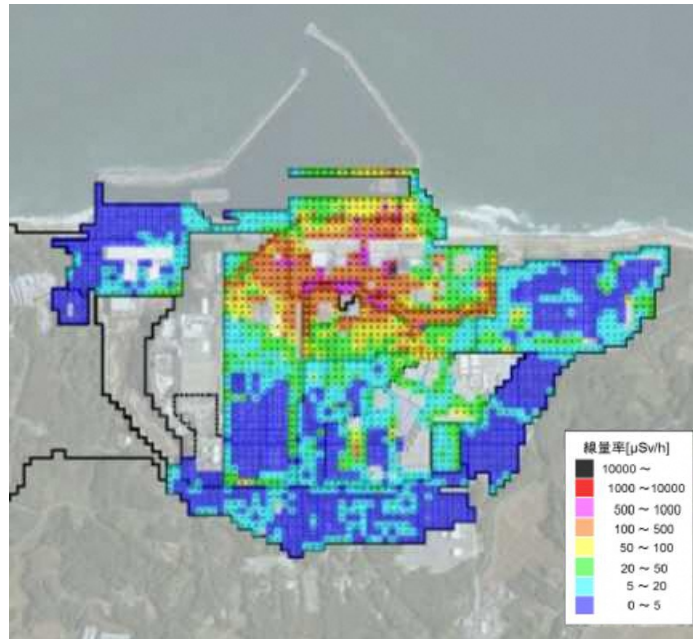
- 2021年4月1日を始期とする眼の水晶体5年間累積等価線量の最大線量は、65.0mSv。
- 全ての作業者の眼の水晶体の等価線量については、100mSv/5年の線量限度を超えないよう、発電所では80mSv/5年の管理をしている。



⑨環境線量率の低下

- 構内の環境改善によって、構内全域にわたって環境線量率が低下している。
2024年度時点で、構内の約96%が全面マスク着用を不要とするエリアとなっている。

2014年度



※ 空白部分は未測定エリア

2024年度

